

まちづくり懇談会議事録

日 時：平成30年11月7日（水） 18：30～20：29

場 所：くりやまカルチャープラザ「Eki」

出席者：21人

1. 開会
2. 町長挨拶
※資料確認
3. 説明事項
(1)栗山町第6次総合計画後期実施計画策定について（資料①・②）
※質疑応答
4. 懇談
(1)栗山町が直面する主な課題について（資料③）
※自由懇談・質疑応答
5. 閉会

《懇談会内容》

意見：コミュニティ放送が平成34年度に開局とのことだが、まずは消防の放送をきちんと聞こえるようにしてほしい。まずは、そういう（既存の）ものをきちんとしてほしい。広報車も回っていたが、なかなか聞こえない。うちの方には回っていないのでは？あつちは回るけどこっちは回らない、というようにならないようにせめてある程度聞こえるように回っていたきたい。

町長：コミュニティ放送まではまだ期間がある。広報車も回っているが何を言っているか分からないとのこと。消防の放送も風向きなどで伝わりづらい。今回、町内会・自治会の会長さんに電話をしたが、携帯が不通だったり、電話も不通だったりしたので、このようなことを言っただけではいけないが、想定外だった。これからはいろいろなことを想定しながら、町の方で検討していく。

質疑：FM放送局のために農協の倉庫は買うのか。DIY工房も設置すると聞いているが、あの広い倉庫を全部使うのは無理。農産物を売ったりした方が良いのではないか。また、FM放送局は法人化するのか、町でやるのか。ニセコ町や中標津町のみ、町で運営していると思う。運営方法と資金面はどうなっているか？きちんとしないと財政負担が増えるので、FM放送局にこだわらず、ポケベルの電波を利用するなど、いろいろな方法を考えた方が良い。芽室町の取組が参考になるのではと思っている。また、平成34年度ではなく、早めに行った方が良い。FM放送局は役場に置いた方が良い。岩見沢市のFMはまなすも連携がうまくいっていないと聞いた。広報車と消防は聞こえない。

町長：DIY工房、FM放送局が入った複合観光拠点として、イベントを企画しながら、まちの賑わいに貢献したい。芽室町の取り組みは調査していきたい。運営主体をどうするかも今後検討していきたい。現状では、まちづくり株式会社を設立し、運営をお願いすることを想定

している。その会社では、DIY工房とFM放送局の運営をしていく。その法人の立ち上げに向けて詰めていく。都市再生の中でやる事業であること。法人化の手続きなどを鑑みて、早くても平成34年度とと思っているので、スピードアップして取り組んでいく。

質疑：冬に入って前回の地震とは違ってくる。くりやまカルチャープラザは、自家発電が無い。冬期の災害用にポータブルストーブはあるのか？

総務課：ポータブルストーブはある。しかし、常設はしていない。冬に向けて対応していく。発電機も大きな施設になるので、すぐには設置できないが、計画はある。今後整備していく。今回の地震では16カ所避難所を開設したが、広く開設する必要があったかとの声もいただいている。内部で検証していく。

提案：くりやまカルチャープラザの避難所開設で、3:00に地震が発生し6:00に開設された。3時間のタイムラグがあるが、例えば2月16日、冬に地震が起きたと考えるといかかか。

町長：避難所の開設は、職員配置もあり、6:00になってしまった。16カ所開設したことは、ブラックアウトだったため、全ての避難所を開設するようにした。全避難所で70人が避難。携帯を充電したり、非常食を取りに着たりする人が多くいた。その後、避難所を縮小しながら運営していた。自家発電設備は16カ所の内4カ所しかない。その他は、発電機と燃料をもって行って電源を確保した。燃料の確保には燃料組合にも協力いただいた。いろいろな方の協力を得ながら何とか乗り越えられた。

意見：震度4以上で対策会議が行われるとマニュアルにあったが、震度4以上の場合、担当者の方が直接避難所に行くことはできないのか？（町長の発言を受けて）避難所の開設は、人命に関わる。きちんと対策をしてほしい。広報車も訓練などしてほしい。動いたまま話しても聞き取れない。工夫が必要。

町長：避難所の開設は、本部長の私が決定する。統率が取れないので、一旦役場に集まってから状況に応じて対応していく必要がある。災害経験のない職員が増えている。組織としての防災力を高めていく必要がある。

意見：広報車の声は聞こえないが、選挙の声はよく聞こえる。ゆっくり一音ずつ話すことが重要。携帯電話はつながったりつながらなかったりしていたが、黒電話や古い電話、公衆電話はつながったと聞いている。そのようなものがあれば伝わる確率も高くなる。消防も聞こえない。通常の会話速度では聞き取るのは難しいので、今の状況でもゆっくり言えば聞こえるのではと思う。

町長：黒電話の件は、検討・調査していく。

意見：栗山町スキー場のリフトが使えなくなったのは残念。なんとか冬を楽しく過ごすために、スキー場が使えないのは大変残念。長沼に借りるのは授業のみで、一般利用の方の移動やリフト代は負担されない。子どもたちがスキーを楽しむために、移手段の確保が必要では。

町長：今のスキー場を廃止するというわけではなく、今シーズンの営業を行わない、ということ。町にとって、必要な施設かあったら良い施設か、と分けたとき、スキー場はあった方が良い施設になると考えている。栗山町スキー場は歴史のある教育施設であり、冬期間の屋外施設。あったら良い施設だからすぐに廃止するというわけにはいかない。議論を尽くして決める。廃止したい場合の交通手段など、今後検討していく。

質疑：町道整備ということで、長沼の拡幅工事と言われたが、北洋銀行から富士の方へ向かう道と金岩商店から札幌方面へ向かう道は幅が違う。整備されるのか？

建設課：新町の拡幅工事は15m程度しかない。20mで要望しているので、引き続き拡幅してもらうように要望していく。幅の違いは、まっすぐそろうかどうか100%決まっていない。調査設計も決まっていない段階。まっすぐ通してほしいが、まずは20mの拡幅工事を確保してもらう。

意見：栗山高校の話があったが、進学校か就職学校か方向付けした方が良いと思う。

教育長：栗山高校は普通科なので進学高だが、全員が進学しているわけではない。由仁高校を統合した際、商業をベースとした勉強ができるようになっていく。進学を希望する方は進学できるように、と考えている。大学の推薦枠もある。子どもの希望に合った進路を選べるようにしていきたい。しかし、今の状況で続けていくか、というわけにはいかないなので、できることから進めていく。

意見：栗山中学校の生徒が栗山高校に行くのが少ないのはなぜか。原因を究明する必要があるのではないか。

質疑：昭和56年当時の災害体験が少ないとのことだが、地域防災マスターや防災士の意見がどの程度取り入れられているのか。

総務課：地域には地域防災マスター認定登録者が40人、防災士が5人いる。彼らの意見を取り入れるかは、今後検討していくが連携をとっていく必要がある。その過程で、意見などを伺いながら検討を進めていく。

意見：停電は初めてだった。停電になったときの対応マニュアルは今後整理されていくと思うが、そのために、避難者の声は聴いたのか？避難所が耐震化されているかどうかも含めて対応していただきたい。

総務課：耐震の関係は、昭和56年以降の建物は震度6～7が来ても避難所として問題ない。強度が足りないところは補強している。避難者の声は、避難所を担当していた職員から聞いているほか、まちづくり協議会や地域サークルからの声を取りまとめているところ。その意見を踏まえながら今後検討していく。